

株式会社鈴木楽器製作所
PRESENTS



REPORT

センス・オブ・ワンダーを 音で表現する

グローバルシチズンシップの基礎を育む
協同的な活動

4 質の高い教育を
みんなに



なかよしリズム...。様々なあそびや
生活の中で、もっと楽しく、もっと思いのままに
楽器に触れて欲しいという想いで生まれました。
子どもたちが自由で、唯一無二に奏でる音は、
私たちが温かい気持ちに
させてくれます。



打楽器セット

なかよしリズム パンダ

NYR-03 | 8種類12個の楽器

打楽器セット

なかよしリズム スタンドタイプ

NYR-02v2 | 20種類29個の楽器

ムービー
活用の様子
ご覧になれます



はじめての出会い



オペレッタ

ウェブサイト
商品情報を
ご覧になれます



いろいろな打楽器

全国お問い合わせ先

札幌/011-551-8911 仙台/022-244-3121 東京/03-5204-3130 浜松/053-477-8801
名古屋/052-703-7715 大阪/06-6190-7911 広島/082-509-2225 高松/087-837-6070
福岡/092-573-7251 熊本/096-213-7733

SUZUKI
株式会社 鈴木楽器製作所

〒430-0852 静岡県浜松市中区領家2-25-7
tel.053-461-2325

レポーター 静岡大学教授 田宮 縁
<https://knotworklab.com/>

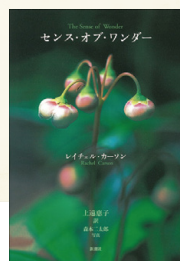


協力：富士市保育幼稚園 富士市立天間幼稚園

10月22日、富士市西公園、ドングリを拾いながら、形を比べたり、数を数えたり、友だちと量を比べたりする子どもたち。その中の数名が、楽しそうに足元に広がる落ち葉を踏みながら、**シャカシャカ、ガサガサ、サカサカ**…大地で繰り返される音を言葉で表現していました。

レイチェル・カーソンは、自然に目をみはる感性を“**センス・オブ・ワンダー**”という言葉で説明しています。自然は子どもたちの内なる感性を刺激し、不思議さや想像力をかき立てると同時に、多くの喜びを与えてくれます。自然だけでなく、子どもたちの身の周りには、実は数多くのセンス・オブ・ワンダーや喜びが満ち溢れているのではないのでしょうか。

ここでは、将来、持続可能な社会の創り手となる子どもたちの基礎的な学びや、それを支える環境について考えていきたいと思います。



センス・オブ・ワンダー
レイチェル・カーソン著
新潮社



お城が完成

富士市立天間幼稚園には、小規模保育事業所が併設されています。5歳児の数名が保育士さんから0・1・2歳児が遊びに使うお城の色ぬりを頼まれました。

色を塗りおわると、自分たちのクラスにも**みんなで遊べるお城をつくりたくなった子どもたち**。クラスのみんなに提案します。

自宅から一人1個段ボール箱を持ってくることになりました。

16個の段ボール箱が集まりましたが、自分たちのイメージに合ったお城はできません。さらに、もう1個ずつ持つてくることになりました。

色を塗って、組み立てます。段ボール箱の大きさが違うため、高さが合いません。大型積み木を扱うよりも工夫をしなければなりません。**段ボール箱を入れ替えたり、方向を変えてみたり、**

試行錯誤を繰り返します。ようやくできましたが、何かイメージが違う。三角形の尖った部分がないと気づいた子どもたちは、先生に相談します。ここは保育者の出番です。保育者がリーダーシップを取りながら、三角柱をつくり、お城は完成しました。



劇までの ユニークなプロセス

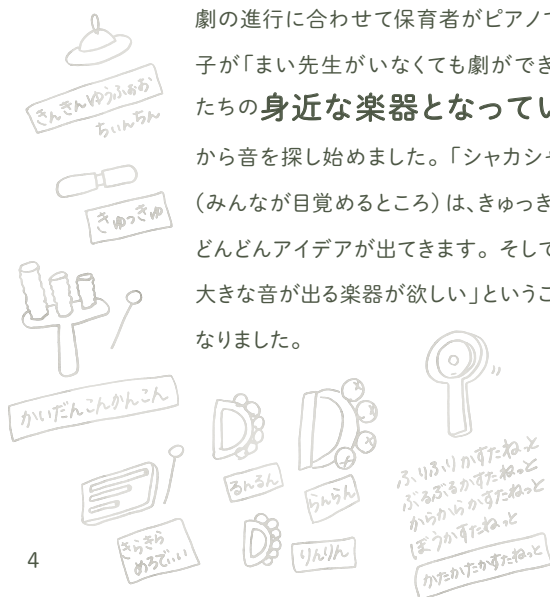
完成したお城でひとしきり遊んだ子どものなかから、「劇ができそう」という声が上がりました。保育者が見守っていると、「大魔王になりたい」という子の声をきっかけに、自分がやりたい役をそれぞれに言い合いました。大魔王が衣装をつくり始めると、他の子にも広まり、全くストーリーもないままに配役が決定、衣装も完成しました。

ごっこ遊びの延長上で、ストーリーも決まっています。ストーリーをつくるなかで、「やっつけられて終わるのは嫌だ」という大魔王役の子の声から、最初は悪者だった大魔王も最後はいい人になるという奇想天外な劇となりました。



環境としての楽器

劇の進行に合わせて保育者がピアノで効果音をつけていると、ある子が「まい先生がいなくても劇ができるように」と言いながら、自分たちの身近な楽器となっている「なかよしリズム」から音を探し始めました。「シャカシャカたまごも使えるよ」、「最後（みんなが目覚めるころ）は、きゅっきゅ（バードコール）がいい」と、どんどんアイデアが出てきます。そして、「大魔王の登場の場面では大きな音が出る楽器が欲しい」ということになり、大太鼓を使うことになりました。



コラム 担任のまい先生に聞きました

- Q - 普段の遊びのなかで、子どもたちはどのように音を楽しんでいますか。
- A - 昼食後の時間に、今の時期だとサツマイモの蔓を使ったリースをつくったり、お店屋さんごっこをしたり、さまざまな遊びが保育室で展開されますが、なかにはメロディオンを出して、キラキラ星など数人で簡単なメロディを奏でる子たちもいます。私自身も楽しくなってきて、子どもたちが奏でる旋律に合わせてピアノを弾くと、自然と打楽器を手にリズムを打つ子がひとり、ふたりと徐々に増えてくるのです。クラス全体ではありませんが、多くの子どもと一緒に心地よい時間を過ごしています。
- Q - 音環境としての「なかよしリズム」についての感想を教えてください。
- A - 大人でも手に取ってみたいようなかわいらしいデザインと同時に、楽器としての美しい音色を兼ね備えています。今までは片付けた後の確認をこちらから投げかけていましたが、なかよしリズムは、パズル的な要素があり、子どもたちが自然と楽器を元の場所に戻します。形や数にも触れる機会になりますね。もう一つ、私自身のピアノを弾く回数が増えたようにも感じます。私にとっても子どもにとっても楽器が身近な存在になったからかもしれません。



ある日の劇遊び

「大魔王って、 本当は良い人なの？」

劇でひとしきり遊んだ後の振り返りの時間のことです。「人魚さんが、大魔王が出てきてもびっくりもしないで何も動かないから、なんか動いたり言ったりした方がいいと思いました」と普段全員の前で話すことがないSくん。そして、みんなの前で、「こうしたらいんじゃない?」と実際に動いて見せながら、「人魚さんは、怖がって海賊の後ろに隠れるとか」と「人魚らしさ」を意識した動きや場所を考えて提案しました。すると、「いい考え!」とみんなが納得し、認められたSくんも人魚役のMちゃんもうれしそうで、とてもあたたかな雰囲気に包まれました。

翌日、恥ずかしがり屋のMちゃんも、Sくんのアイデアにしたがって、人魚になりきって振る舞いました。この日の振り返りでもMちゃんの人魚役を認める発言が複数ありました。前日の話し合いのことを子どもたちは覚えていたのです。毎日、劇で遊んだ後、子どもを主体とした話し合いが、30分以上続きます。みんなで作った「大魔王って、本当は良い人なの?」への強い思いを感じました。「なかよし大魔王リズム」はまだまだ発展していきます。

グローバルシチズンシップの基礎を育む 協同的な活動のポイント

- 子どもの思いや願いを受け止める保育者の存在
- 思いをつなぐ物的環境 — アフォーダンス
- 子どもと保育者で状況（遊びたくなる、話したくなる…）をつくる

コラム 渡邊園長に聞きました

- Q - 実践のダイナミズムを体感させていただきましたが、園長先生は本実践をどのようにとらえていますか
- A - 5歳児はもちろんのこと、異年齢の子どもも職員も一緒に園全体で劇を楽しんでいました。5歳児の熱い思いにみんなが引き込まれていくというイメージに近かったと思います。夏休み頃までは、どちらかというとおとなしく、担任の思いに沿うように動いている子ども達でしたが、秋以降、担任が子どもの力を信じ、子どもの思いを大切にしたい保育にすることで、一人一人が自分の思いを存分に出すことができるようになりました。意欲的に考えて行動する姿に子どもの育ちを感じています。また、気になるお子さんもいるのですが、劇遊びでは、それぞれが自分の好きな役を自分で作り、参加することができました。一人一人の主体性が発揮されていたのです。なりたて役を決めてからつくる劇、担任の柔軟な援助や、子ども同士をつなぐ物的環境の役割をあらためて考えることができた実践でした。

